

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

えっ！ IT 部門が崖っぷち？

始まります！ 2/6 からソチ(ロシア)にて冬季オリンピックが開催されます。(開会式は2/7)

ジャンプ、ノルディック複合、モーグル、スケート、フィギュア、カーリングなど楽しみが沢山ありますね。
寝不足の日々が続きそうです。

◆崖っぷちの IT 部門

日経コンピュータ 2014. 1. 23 号で「崖っぷちの IT 部門」という特集が組まれていました。

私は IT 部門へのサポートを行っていますので、このタイトルはとても気になりました。

記事の内容をご紹介しますと思います。IT 部門と利用部門のアンケート結果を考察した記事です。アンケート結果は次の様になっています。

IT 部門は「事業に貢献している」と自負しているが、利用部門は「ブレーキをかける存在」とみなす場合がある。一方で、利用部門は IT 部門に対して「ビジネスを主導してほしい」とまでは期待しておらず、システムの安定稼働など IT の仕事をしっかりこなしてくれればよいと考えている。IT 部門も最大の役割は「言われた仕事をきちんとこなすこと」だと自認する。IT 部門の体制は5年後も役割は変わらない。
IT 部門と利用部門のコミュニケーションも不足している。

さらに、昨今の IT を取り巻く状況を踏まえ IT 部門の危機を訴えています。

「ビジネス変化の加速・グローバル化」「IT のコモディティ化」「ビジネスと IT の一体化の要請」という状況の中、IT 部門は「受け身の姿勢」「IT コモディティ化で IT 専門家としての意義が低下」「個別のシステムを長期担当し、全社的な視点が欠落」という状態になっている。クラウドが普及すれば IT の職人を社内にと抱える意義は薄れ、たこつぼ的な知識も、クラウドにとって代わられる。

このような状態が続けば、

「今のままでは IT 部門では早晚、経営層の期待にこたえられなくなる」

とのこと。

このような状態の解決策として下記を提案し、事例を紹介して締めくくられています。

必要な新たな専門性として「全社横断のビジネスプロセス」を扱う知識を持つ部門が必要。経営層が最も求めているのは、ビジネスプロセスを分析して、新モデルの提案や変革につなげる組織や人材。

ビジネスと IT を融合した組織の新設、人事制度の改革で利用部門との融合を加速するなどが既に行われている。

詳しい事例などは日経コンピュータ 2014. 1. 23 号をご覧ください。

◆「崖っぷちの IT 部門」を読んで

確かに、IT 部門をサポートする際に IT コモディティ化を感じます。最近携わったプロジェクトも自社開発していたツールからクラウドサービス(SaaS)に移行するものでした。その移行によって、極端に言えば、プログラムやサーバーの保守から、ベンダーへの取次に仕事が代わってしまうことになります。記事の通り「自社の IT 部門の役割は減る」傾向にあるのかもしれませんが。(業務知識が有る場合もありますので、一概には言えません)

また、「ビジネス領域に関する知識・組織が必要」という意見はとても賛同できます。IT 部門は業務と IT が紐づいた知識を有していることを強みの 1 つとしなければなりません。IT はもはや、会社が生業としているビジネスをサポート・推進する機能の一部だからです。

しかし、たとえ企業の情報システム部門とはいえ、IT アーキテクト志向やネットワーク技術者志向のメンバがいます。さらに、その志向を持ったメンバが IT 部門の大半を占めている場合もあります。そのような状態で「ビジネス領域に関する知識・組織」に変革していくのはかなりの努力が必要となるのではないのでしょうか。

トップダウンによる方針転換だけでなく、個々のキャリアプランも併せて検討していくことも重要になってくると思います。(事例に掲載されている企業のお話をもっと詳しく知りたくなりました。) そうでないと、身は従っても心は従えない状態が長く続き、モチベーション低下や人材流出が起これます。

例えば、キャリアとしてビジネスアナリシス・要求定義・ベンダーマネジメントに関する部分を推進することでしょうか。(独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の情報処理技術者試験にそのような要素の試験を追加しても面白いかも。)

IT アーキテクト志向やネットワーク技術者志向しているメンバが急な方向転換ができないかもしれませんが、キャリアプランを明示するのは重要です。

最後に、IT 部門は間接部門なので、固定費を削減する対象になりやすい部門です。ただ、IT 部門機能を削げ落としすぎると、業務がまわらない状態、急な対応ができない状態、最悪企業価値(競争力)低下する事態になることが想定できます。企業として必要な機能を明確にして今後の IT 部門を検討していくことになるでしょう。また、IT 部門側としては存在価値を高める期限が刻一刻と近付いてきている。と感じました。

「本は考える為のサプリメント」(その 34)

今月紹介する本はタイトル通り、小さな組織でも大きな仕事ができるんだぞ。という書籍です。37 シグナルズという IT 系の会社の経営者による書籍です。元々は Web デザインコンサルティングを行っていたサービス提供会社が、オンラインツールというソフトウェア提供をする企業に業態変更しました。

一般的な経営に関する通説に反論し、自分流にやり方を作り上げながら成長したとのことで、そのやり方を示した書籍です。



「小さなチーム、大きな仕事[完全版]

—37 シグナルズ成功の法則

(ジェイソン・フリード

ディヴィッド・ハイネマイヤー・ハンソン 著)

簡単に内容を紹介します。

「失敗は成功の源ではない」「会社の規模は気にしない。小さな企業はもっと大きければと願っているのに、大企業は身軽で柔軟であることを夢みている」「あなたに必要なものを作る」「あれがない、これがないと嘆く前に今自分ができるのはなになのかを考える」「マーケティングは会社の皆が行うものである」「喜びを得るために雇うのではない。苦しみを消すために雇う」「履歴書はジョークだと思っている」「文章力がある人はそれ以上のものを持っている」「たった一人の間違いから規則をつくらないこと。一人の間違いに対する皆への罰だ」等々

シンプルに掲載されていますので、すらすらと読み進んでいけます。「自分流に作り上げながら」となっていますが、他企業例があったり、セオリー的なものも含まれていたりもします。面白く、示唆に富んだ書籍です。

編集後記

今月号は「原価計算のシステム化って？」の続きを掲載する予定でしたが、次月号に掲載します。IT 部門をサポートする私としましてはとても気になる内容だったので「崖っぷちの IT 部門」をご紹介した次第。IT アウトソーシングの流れが益々活発になってくる予感があります。

まだまだ寒さが続きます。ご自愛ください。(石)